

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

### E. 十二使徒の任命と山上の教え

#### 12. 山上の教え、第11部:

神を愛することは祈り続けることである

デイリージーザスニュース #078

基本テキスト: MT 7.7-12 (並行テキスト: ルカ6.31)

7「わたしはあなたがたに命じます。求め続けなさい。そうすれば、与えられるでしょう。同じように、探し続けなさい。そうすれば見つかります。門をたたき続けなさい。そうすれば、開かれます。8すべて、求め続ける者は受け、捜し続ける者は見つけ、門をたたき続ける者には開かれます。

9あなたがたのうち、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者がいるだろうか。10あるいは、子が魚を求めるのに、蛇を与える者がいるだろうか。

11このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には良い贈り物を与えることを知っているとするれば、天の父はなおさら、求めつづける者に良い贈り物をくださるはずだろう。

12「だから、私はあなたがたに命じます。何事においても、あなたがたが他人からしてもらいたいと思うとおりに、他人に対してもそのようにしなさい。これが律法と預言者の教えの要点です。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルーク = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月 ( 第16月 )
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	12. 山上の教え、第11部 神を愛することは祈り続けることである

コメント :

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスの「山上の教え」の最後を飾る3部作のうち、弟子としてのイエスの2番目の課題は、祈りの粘り強さでした。イエスは、すでに個人的な祈りの要点について簡潔な入門書を書かれていました(マタイ 6.5-15; DJN #074)。今、イエスは、祈りの人生においてイエスの模範に従う際に直面する最も重要な戦い、つまり決して諦めない粘り強さについてお話しになりました。

イエスは、弟子たちに3つの異なる方法で祈るよう手本を示し、教えました。それは、(1)個人的に、(2)集団で、(3)私たちが行うすべてのことにおいて、三位一体の神と継続的な交わりと静かな心の対話の中で生きることです。これらのうち、ほとんどの人が最も苦勞するのは、個人的な祈りです。

二人以上の信者と集まって祈るとき、私たちは神の臨在の特別な力強さを体験します。静かに心から祈り、神と交わることを学びながら、絶え間なく祈ることは、永遠の喜びの源であり、生涯を通じて成長し続けるプロセスです。しかし、定期的に個人的に祈ることは、私たちに常に新しい課題をもたらします。あきらめるのは簡単すぎます。イエスは私たちの必要性を知っており、生涯の祈りを励ますためにこの特別な命令と約束を与えてくださいました。

主は個人的な祈りに関して不断の祈りを命じられました。主はこの点を強調するために、3つの現在形の命令形を使用されました。『**私はあなたに、求め続け、探し続け、たたき続けるように命じます。**』

イエスの要点は、決して諦めてはいけないということです。イエスのように、力強い個人的な祈りの生活を育むことは、決して簡単なことではありません。それは、私たちが試みることの中で最も難しいことのひとつです。しかし、ただ一つのことだけを行えば、成功は保証されます。それは、続けることです。

確かに、私たちは絶望し、時には諦めるでしょう。退屈で、精神を消耗させるような乾いた時期もあるでしょう。心と集中力が散漫になるかもしれません。決められた祈りの時間を守れず、何度も祈りの習慣を放棄して、自分は絶望的だと思うようになるでしょう。おそらく、個人的な祈りの領域では、自分が地球上で最悪の弟子であると確信するでしょう。これはすべて、個人的な祈りのライフスタイルを発展させる上で正常なことです。

イエスは私たちにこう言うでしょう。『**だから何だ？ 起きなさい。今日祈りなさい。過去のことは忘れて、今すぐに前進しなさい。明日のことは明日に任せなさい。**』

イエスが私たちに求めているのは、決して自分自身を諦めないことです。なぜなら、イエスは私たちを決して諦めないからです。私たちはただ進み続ける必要があります。もう一度始めてください。そしてまた。そしてまた...何度失敗しても、もう一度挑戦すると確信できるまで。この姿勢は、個人的な祈りの中で確実に勝ちます。ブルドッグの粘り強さは、頑固な粘り強さとして表されます。これがイエスが命じていることです。

主は、その命令を補強するために、粘り強さに関する2つの貴重な約束を私たちに与えてくださいました。まず、イエスは『**求め続ける者は皆(例外なく)受ける**』と言われました。求め続け、探し、たたき続ける者に対してこのフレーズを3回繰り返すことで、イエスは、その約束が祈り続けるすべての人に当てはまることを強調しました。私たちが規律を守り続ける限り、イエスのように祈る方法を学びたいという私たちの願いは必ず叶えられます。

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

個人的な祈りを粘り強く続けるというこの課題は非常に重要なので、イエスは宣教活動の中でさらに2回この問題について触れています(ルカ 11:1-13、18:1-8)。福音書の300節でイエスが祈りについて教えている中で、この真理こそが主が他のどの真理よりも私たちに実践してほしい唯一の真理であると言っても過言ではないでしょう。粘り強く続けることで、祈りのあらゆる側面への扉が確実に開かれるでしょう。

イエスは、私たちの粘り強さをさらに奨励するために、今日の聖書箇所で二つ目の約束をされました。私たちは罪深いけれども、子供たちに良い贈り物を与える方法を知っていると指摘した後、イエスは、私たちの父は限りなく善良であり、私たちが求めるもの、つまり私たちが望むものや必要とするものをはるかに超えるものを与えたいと願っていることを思い起こさせてくれました。神の善良さは、求め続ける人々に、神が常に良い完全な贈り物を与え続けることを保証しています。言い換えれば、神は完全に善良であるため、私たちに完全に良い贈り物だけを与えてくださるのです。これは確かです。

イエスは、祈りの粘り強さに関するこの命令/警告を「黄金律」で締めくくりました。私たちは、イエスのこの有名な言葉の背景が祈りの教えであったことを忘れがちです。祈りの粘り強さと黄金律とは何の関係があるのでしょうか。すべてです。

他の人にしてほしいと思うことを、他の人のためにすることは、祈りから始まります。私たちは、他の人に祈ってほしいとどれほど頻繁に願っているでしょうか。困ったとき、まず神に祈り、それからできるだけ多くの人に祈ってもらいます。神からの直接の答えだけが満たされる必要に迫られたとき、私たちは何よりも他の人に祈ってほしいと思うのです。

実のところ、人生で私たちが必要とする最も重要なものはすべて、祈りの答えとして神からのみ与えられます。赦し、永遠の命、決断の導き、理解を超えた平和...これはほんの始まりにすぎません。私たちが本当に他の人のことを気にかけているなら、彼らのために執り成しの祈りを粘り強く続けるでしょう。神だけが他の人に与えることのできる賜物を、彼らのために熱心に祈ることで得ることは、黄金律を生きるための必要な第一歩です。私たちが他の人のことを本当に祈るほど気かけなければ、彼らのためにできることはほとんどないでしょう。

応用：

あなたの祈りの粘り強さは、1から10のスケールで何点ですか。この数字について、イエスの命令はあなたに何と言っていますか。改善する必要がありますか。どの程度改善する必要がありますか。

あなたは、祈りに関するイエスの最も重要な命令と警告を、今日、明日、あるいは毎日、どのように実践しますか。